

谷小学校のユニバーサルデザイン

★ユニバーサルデザインとは、

文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)のことを言う。(Wikipediaより引用)

★ユニバーサルデザインの良さを取り入れた教育とは、

「配慮の必要な児童にとって、なくてはならない支援」であり、「すべての児童にとって、あると便利な支援」を行うことで、すべての児童にとっての「分かる・できる」を保障する教育。

そこで、まず、

教室環境のユニバーサルデザイン

1. 場の構造化

- (1) ものの一つ一つに、「しまう場所」があるか
- (2) 子どもにも一目でわかる「目印」があるか
- (3) 視覚的な「お手本」が用意されているか



一つ一つのものに居場所、しまう場所を与える。
机をおく位置に印をつける。(低学年)

2. 刺激量の調節

- (1) 注意散漫の原因因子をおさえる配慮があるか
- (2) 教室前面は、最小限の掲示になっているか
- (3) 席順や座席の位置は最適か



教室の前面は、極力すっきりとさせる。
黒板周辺は、一番視野に入りやすいです。
黒板まわりをすっきりさせることで、刺激量を抑えることができます。

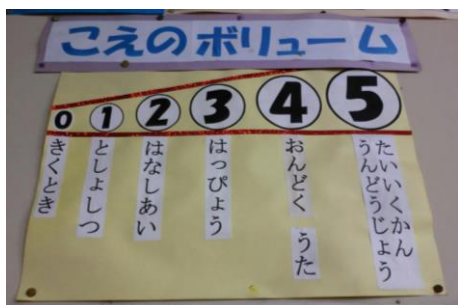
前面は、学級目標や学校目標ぐらい。
黒板は、日付と当番ぐらい。日課表は小黒板をつかう。



全面黒板横のスペースは、授業中は、カーテンレールで目隠しをする。

3. ルールの明確化

- (1) 全員が実行可能なルールか
- (2) 視覚的に分かりやすく掲示してあるか
- (3) できた、できなかったの評価が明確か



当番活動などの掲示は、誰が見てもわかりやすく、実行しやすい掲示を心がけるようにします。また、「仕事が済んだらカードをひっくり返す」のようなルールを取り入れると、進捗状況も一目でわかり便利です。

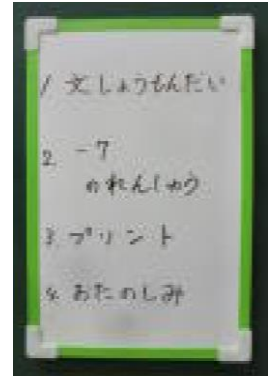
つぎに、

授業のユニバーサルデザイン

1. 時間の構造化

- (1) 授業全体の見通しを持てる手立てがあるか
- (2) 時間の区切りが明確であるか
- (3) 今すべきことが分かる手立てがあるか

授業の最初に、この1時間がどのような流れで行われるかの全体を明確にしておくことで、見通しがもてず不安になってしまう子どもに安心感を与えることができます。(写真は、特別支援学級の例)



2. 焦点化

- (1) 1時間の授業の「ねらい」を絞る
- (2) 授業の山場を設定する
- (3) 活動を「ねらい」に直結させる

1時間の授業の中での「ねらい」を絞ることはとても大切です。ねらいが漠然としていたり、多くを1時間に盛り込んでしまうと、目標も曖昧になりがちだからです。

3. 視覚化

- (1) 実物や半具体物の提示で課題を明確にする
- (2) 実物などの提示で意欲を引き出す
- (3) 図や表などにまとめ、直感的理解につなげる

具体物を操作することで、イメージをつかみにくい子どもや理解がゆっくりな子どもでも、視覚的に理解を深めることができます。ICT機器の有効活用も効果的です。



4. 共有化

- (1) 分からないことがある子どもも参加できる
- (2) どの子どもも発言のチャンスがある
- (3) 考える時間を意図的に取り入れる



ペア学習を効果的に取り入れることで、子どもたち一人ひとりが自分の意見を発表したり、話し合える機会を保障します。



意見の享有をするためには、自分の考えをもつための時間を確保してあげることが必要です。

5. 板書の構造化

- (1) 情報量を考えた板書
- (2) 思考を助ける板書 (色分け等)

